

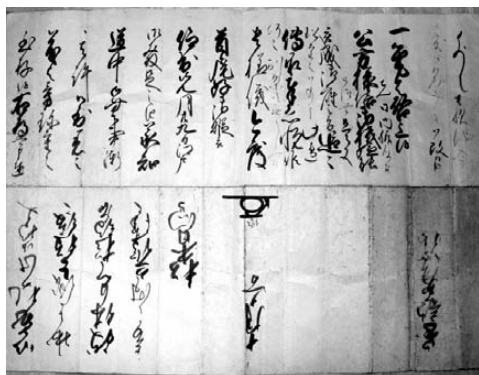
「上山城」からのたより 初春 第70便

藤井松平家・大躍進の背景

ここに一通の書状がある。藤井松平家五代当主信之のぶゆきが岡部美濃守宣勝のぶかつに宛てたものである。

当時、信之は播磨国明石藩主、岡部宣勝は和泉国岸和田藩主（現大坂府）に任ぜられていた。書状には、宣勝が江戸からの暇が許されて岸和田に無事戻ったことを喜び、併せて信之の近況報告などが記されている。また、宣勝が改名したことを息子の内膳正行隆ゆきたかから聞き、喜ばしいことだと伝えている。書状の内容から大名間の書状のやり取りというよりはより親密な関係が読み取れる。

藤井御傳記の系図には岡部家との関係は明記されていないが、寛政重修諸家譜等で系図を調べると、藤井松平家と岡部家



は久松松平家と桜井松平家を介して親戚筋にあたることがわかる。藤井松平家四代信吉のぶよしは桜井松平家より養子に来ており、信吉の母多劫姫たせきは久松松平初代康元やすもとと兄妹である。いずれも母は伝通院でんつういん（於大の方）で徳川家康いえやすの実母である。つまり信吉の母は家康の異兄妹となる。また、岡部宣勝の母は康元の娘であることから信吉といとこ関係にあり、信之の父忠国ただくにと宣勝はまたいとこということになる。

藤井松平家は信吉が養子に入つて以降、忠国、信之、忠之ただゆきまでの間に土浦四万石、高崎五万石、笹山五万石、明石七万石、郡山八万石、古河九万石と次々と石高を増加され、信之は老中にも抜擢されている。個人の裁量はもちろんだが、この大躍進の背景には親族に家康の生母という大きな後ろ盾があったからではないかと推察できるのである。忠之の代に改易の憂き目を見そうになり、辛うじて弟信通のぶみちに三万石で上山藩へ転封という措置がとられたのもその影響が少なからずあったのではないだろうか。

公益財団法人上山城郷土資料館

学芸員 大場 浩子

【常設展示室より】「松平日向守信之書状（岡部美濃守宛）」は2階松平コーナーに展示しています。